

令和 2 年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 国 語

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教 科	国 語
-----	-----

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
東 書	2	国語 101 102 201 202 301 302 401 402 501 601	あたらしい こくご 一上・一下 新しい国語 二上・二下 三上・三下 四上・四下 五 六	・2年以上の各学年の冒頭で年間の学習のめあてを示し、友だちと意見を出し合い、対話や話し合いを通して自分の考えを深める学習過程が設定されている。 ・各学年末では、これまでに学習した「言葉の力」を整理している。また、2年以上の各学年の冒頭で学習する「言葉の力」を示し、系統的に指導できるよう工夫している。 ・どの教材も、「つかむ ⇒ 取り組む ⇒ 振り返る」の3段階で構成されており、学習の流れを児童に定着させやすい。 ・2年以上では、最初の読み物教材の後に「国語ノートの作り方」が紹介されており、ノート整理の基本的な項目や学習を振り返るためのノートの使い方を示している。 ・単元の初めに、学習のめあて、つけたい言葉の力、「つかむ」として学習の見通しが示されており、「読む」の単元では、扉の右1ページに見通しが示されている。 ・手引きは授業展開に活用しやすいが、課題が丁寧でやや細かい。 ・1年生のはじめの教材に言葉遊びを取り入れていることは斬新でインパクトがあり、楽しみながら言葉のよさを感じ取るよう工夫している。 ・「読む」「書く」「話す・聞く」がバランスよく配置されており、各領域を系統的に指導しやすい構成となっている。 ・全体的に整然としたレイアウトで、見やすい。 ・挿絵が美しく、段落内容に即している。 ・全体的に落ち着いた色調となっている。 ・5、6年が合本でやや重いが、学習内容の振り返りがしやすい。 ・資料や表は簡潔である。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学 図	1 1	国語 103 104 203 204 303 304 403 404 503 504 603 604	みんなとまなぶ しょうがっこう こくご 一ねん上・一ねん下 みんなと学ぶ 小学校 こくご 二年上・二年下 みんなと学ぶ 小学校 国語 三年上・三年下 四年上・四年下 五年上・五年下 六年上・六年下	・各学年の冒頭に、これまでの学習を振り返り、今後の学習について話し合わせ、主体的に学びを進めようとする態度を養うよう工夫している。 ・3年以上で、学年でつきたい力を「読む」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の各領域で整理して示している。 ・2年以下では、『みんなと学ぶ小学校こくご』のつかい方として、楽しく学習を進めることを重視している。 ・海外が舞台となった教材や外国から日本に来た子どもが主人公となった教材がやや多く、多様性を尊重しながら問題解決能力の育成を目指す内容となっている。 ・学習の進め方は、教材によってやや異なっている。 ・「読む」の単元に扉がなく、学習内容を児童に想起させるにくい。 ・写真や挿絵が鮮明で見やすく、点字の表も立体的であり、グラフや表にインパクトがある。 ・A I や東京スカイツリー等、現代的な話題を取り上げた教材が多い。 ・児童のキャラクターが現代風に描かれている。 ・教材文は、多彩な執筆者により、現代的でグローバルな視点で書かれている。 ・狂言や古典・短歌・俳句など伝統文化を多く掲載している。 ・物語文には、道徳的な内容を含んだ作品がやや多い。 ・教材文下のキャラクターのつぶやきと学習が関連させるにくい。 ・授業展開に活用するためには、手引きの問いがやや単調である。 ・「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の各領域の配分が、上下巻によって差がある。 ・1年の初めの教材のイラストがパステル調で美しいが、やや小さく細かい。 ・5、6年は上下巻分冊で持ち運びがしやすいが、学習内容の振り返りには使いにくい場合がある。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
教 出	1 7	国語 105 106 205 206 305 306 405 406 505 506 605 606	ひろがることば しょうがくこくご 一上・一 下 ひろがることば 小学国語 二上・二 下 ひろがる言葉 小学国語 三上・三 下 小学国語 四上・四 下 小学国語 五上・五 下 小学国語 六上・六 下	・ 1年間の学習で各単元が相互に関連する配置になっており、「言葉の力」の充実に重点が置かれた内容となっている。 ・ 1年間の学習の関連は、各学年の教科書冒頭でわかりやすく示されている。 ・ 「話す・聞く」「書く」の各単元の冒頭下部には学習の進め方が示されており、児童が見通しを持って主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 手引きの下段や「話す・聞く」「書く」の教材は、児童のイラストを使って、課題解決に向けてのヒントや道筋を示唆しており、児童が考えるモデルになるが、数がやや多い。 ・ 「読む」の単元に扉がつけられており、単元の目標と学習する内容を児童に予想させるリード文がある。 ・ 「読む」の学習過程は、「確かめよう ⇒ 考えよう ⇒ 深めよう ⇒ 広げよう」の4段階としており、学習の流れを児童に定着させやすい。 ・ 手引きの後に「言葉」のコーナーが設けられており、「言葉を学ぼう」や「言葉を増やそう」といった内容によって、語彙を充実させたり確かめたりすることができる。 ・ 落語、古典など伝統文化を扱った教材が多い。また、文化のコーナーも日本の伝統的な言葉や文化を味わい、親しむことができる内容となっている。 ・ オウムのキャラクターにより、学びのポイントが楽しく示されている。 ・ 教材は系統的に配置されているが、「読む」の教材の分量が他の領域と比較して、やや物足りない。 ・ 写真や図が鮮明で美しく、わかりやすく、見やすい。 ・ 5、6年は上下巻分冊で持ち運びがしやすいが、学習内容の振り返りには使いにくい場合がある。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
光 村	3 8	国語 107 108 207 208 307 308 407 408 507 508 607 608	こくご一上 かざぐるま こくご一下 ともだち こくご二上 たんぼぼ こくご二下 赤とんぼ 国語三上 わかば 国語三下 あおぞら 国語四上 かがやき 国語四下 はばたき 国語五 銀河 国語六 創造	・全学年で「読む」「書く」「話す・聞く」の構成がほぼ同じで、系統的に学習できる。 ・伝統的な教材が多い。 ・「話す・聞く」「書く」の単元の冒頭下部に学習の進め方が示されている。 ・「読む」の単位には扉があり、単元目標と学ぶ内容を問いかけ、予想させるリード文がある。また、「これまでの学習」が明記されており、下学年での学びを確認できる。 ・「読む」の学習過程は、「とらえよう ⇒ ふかめよう ⇒ まとめよう ⇒ ひろげよう」の4段階で構成されており、学習の流れを児童に定着させやすい。 ・学習過程と学習の手引きが関連付けられ、思考力・判断力・表現力を深める構成となっている。見開き1ページで、見やすく使いやすい。 ・他教科と関連付けた教材や、学校生活や日常生活などを取り上げた教材がある。 ・「季節の言葉」は、日常生活と関係した内容を取り上げ、自分の生活を振り返りながら、潤いのある情景を想起させている。 ・巻末に「言葉の宝箱」として、様々な場面で用いる言葉が整理されており、語彙を確かめたり広げたりといった学習に活用できる。 ・単元末に、3つの視点で統一された「ふりかえろう」が配置されている。 ・2年以上で情報の取扱いについて系統的に学べるよう「情報」という小教材が4か所ずつ配置されている。 ・学年冒頭に「言葉の準備体操」としてアイスブレイク的な教材がある。 ・説明文の単位では、学び方の練習教材の後に本教材を配置している。 ・各教材末に新出漢字をまとめて表記しており、学習した時期をずらさずに指導しやすい。 ・狂言や落語、古典・短歌・俳句、二十四節季など伝統文化を多く扱っている。 ・活字は濃く明瞭だが、やや小さめである。 ・5、6年が合本で重いが、学習内容の振り返りには活用しやすい。

教科用図書調査に関する報告書

国語		観点別評価		「◎」優れている		「○」標準的		「△」やや劣る	
選定の観点		選定の視点		東書	学図	教出	光村		
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている国語科の目標達成に結び付く内容になっているか。		○	○	○	◎		
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。		◎	○	○	○		
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。		○	△	○	◎		
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。		○	○	◎	○		
内容	1	日常生活に必要な知識や技能が習得できるよう、日常生活と関連付けた工夫がなされているか。		○	○	○	◎		
	2	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっているか。		◎	○	○	○		
	3	語彙を豊かにし、言語感覚を養う工夫がなされているか。		○	○	◎	◎		
	4	情報の整理の仕方や、原因と結果など情報と情報との関係について理解することができ る工夫がなされているか。		○	○	○	◎		
	5	我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる工夫がなされているか。		○	◎	◎	◎		
	6	図鑑や事典などを活用することができ る内容となっているか。		○	○	○	○		
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。		○	○	○	○		
	2	児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。		◎	△	○	◎		
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。		◎	○	○	○		
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。		○	○	○	○		
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。		◎	△	○	○		